

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		運動療育センター くらんど中間教室				公表日	2026年 3月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		開所時より運動療育に適した活動スペースを確保し、安全に配慮した環境整備を行っている。利用人数に応じて活動内容や配置を調整している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		基本人員を満たし、利用児童の状況に応じた配置を行っている。法人内の他教室とも連携し、支援体制の安定化を図っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		視覚的支援やスケジュール掲示を取り入れ、見通しの持てる環境づくりを行っている。安全面を考慮した環境整備を進めている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		日々の清掃・消毒を徹底し、運動器具の安全確認を実施している。安心して活動できる環境づくりに努めている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		必要に応じて個別対応ができる空間を確保し、クールダウンや個別支援に活用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	開所初年度として定期的な振り返りを実施し、支援内容の改善を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	7		初めての評価実施となるため、保護者の意見を真摯に受け止め、今後の業務改善につなげていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員会議や日々の打ち合わせで意見交換を行い、改善点を共有している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	7		現時点では未実施であるが、今後必要性を検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		法人内研修および外部研修に参加し、専門性向上に努めている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		ガイドラインおよび5領域を踏まえた支援プログラムを作成し、ホームページにて公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		利用開始時および定期的にアセスメントを実施し、ニーズを把握している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		一人ひとりの発達段階や強みを丁寧に把握し、保護者の思いや将来像を大切にしながら個別支援計画を作成している。開所初年度であることを踏まえ、計画作成においては特に情報共有を密に行い、実践と振り返りを重ねながら精度を高めている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		支援計画を全職員で共有し、日々の支援に反映している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		標準化ツールと日々の観察を組み合わせ、評価を行っている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		本人支援・家族支援等を踏まえ、具体的な目標設定を行っている。		

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		活動内容は職員間で協議し、目的を共有している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		子どもの反応や発達段階を踏まえ、活動内容を工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎日の打ち合せで役割分担や配慮事項を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		支援終了後には終礼にてその日の支援の振り返りを行い、気づきや課題を共有し次回の支援に活かしている。終礼が実施できない場合や当日不在の職員については、翌日の朝礼や業務日報を活用し、情報が漏れなく共有されるよう工夫している。小さな成長や変化も職員全体で喜び合いながら共有することを大切にしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		日々の記録を徹底し、支援の見直しに活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		定期的にモニタリングを実施し、必要に応じて見直ししている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		ガイドラインの4つの基本活動を意識し、運動療育を中心に自立支援・創作活動・余暇活動等を組み合わせながら支援を行っている。子どもが主体的に参加できる活動構成を工夫している。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		活動選択の機会を設け、子どもの自己決定を尊重している。子ども会議を開催し、意見を取り入れる機会を確保している。また、日々の支援においても職員からの一方的な指示にならないよう複数の選択肢を提示し、子ども自身が選択・決定できるよう工夫している。自己決定する力の育成を意識した支援を行っている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童の状況を把握している職員が会議に参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		学校・相談支援専門員等と情報共有を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		送迎時や必要に応じて学校と連絡を取り、下校時刻や行事予定の確認など情報共有を行っている。また、トラブル発生時には速やかに連絡・調整を行い、適切に対応している。支援の一貫性を意識しながら情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		就学前の情報を把握し、支援に活かしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		現時点で実績は無いが、将来的な移行を見据え支援している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		研修参加等を通じて連携を図っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7			今後地域交流の機会を増やしていく予定である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2	地域研修等へ参加し、情報収集に努めている。	

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7		日々の送迎時や連絡ツール等を通して子どもの様子を保護者と伝え合い、発達状況や課題について共通理解を図っている。小さな変化も共有しながら、家庭と連携した支援を心がけている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5	必要に応じて保護者との面談を実施し、助言や情報提供を行っている。	一方で、家族支援プログラムや研修の機会については現時点では実施できていないため、今後は保護者のニーズを把握しながら、家族支援の機会づくりを検討していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に丁寧な説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		放課後等デイサービス計画の作成にあたっては、子どもや保護者の意思を尊重し、面談等を通して意向を確認している。子どもにとってより良い支援となるよう意識しながら、家族の思いを反映した支援内容となるよう努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		計画内容を説明し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談や連絡ツールで相談対応を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	7		体育館活動の保護者参観や味噌作り体験などの家族参加型イベントを開催し、保護者同士が交流できる機会を設けている。また、日々の療育見学の機会も設け、保護者が子どもの様子を共有できる環境づくりを行っている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情対応体制を整備し、迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		保護者との連絡ツールやSNS等を活用し、活動の様子や行事予定、連絡体制等について定期的に情報発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		適切に保管・管理している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		子どもや保護者との意思疎通においては、それぞれの特性や状況に応じた分かりやすい伝え方を心がけている。視覚的な提示や具体的な言葉かけ等を工夫し、安心して情報を受け取れるよう配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5		新規開所の事業所として、今後は地域との関係づくりを大切にしながら、地域に開かれた取り組みを模索していきたい。
非常時等の	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等の各種マニュアルを策定し、職員へ周知している。保護者にも必要に応じて説明を行っている。また、発生を想定した訓練を実施し、緊急時に適切に対応できる体制づくりを行っている。実践的な訓練を通して、対応力の向上に努めている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCPを策定し訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		利用開始前に健康情報を確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		食物アレルギーのある子どもについては、医師の指示書や保護者からの情報に基づき、内容を職員間で共有した上で適切に対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を作成し、必要な研修や訓練を実施している。日常的にも環境確認や職員間での注意喚起を行い、安全管理を徹底した上で支援を行っている。定期的な見直しを行い、継続的に安全体制の向上に努めている。	

対 応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安全計画に基づく取組内容について、契約時や必要に応じて保護者へ説明し、周知している。子どもの安全確保に向けて、家庭とも連携を図りながら対応している。緊急時の対応方法等についても共有し、共通理解のもとで安全確保に努めている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		発生時は報告書を作成し、職員間で共有し再発防止策を検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待防止に関する研修の機会を設け、職員の理解向上に努めている。また、日々の支援においても声かけや関わり方を振り返り、不適切な支援の未然防止を意識している。職員間で気づきを共有し、早期に対応できる体制づくりを行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	2	身体拘束は行わない方針としている。身体拘束に関するマニュアルを策定し、全職員を対象に研修を実施している。安全確保が必要な場合も、身体拘束によらない支援方法を検討・実践している。	

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育センター ぐらんど中間教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 16日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 16日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業所向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育を軸にした専門的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動プログラムを「体力づくり」だけでなく、協調性・順番理解・自己コントロール等の発達課題と結びつけて構成している。</li> <li>成功体験が積めるよう、難易度を段階的に調整している。</li> <li>活動後に子どもの様子を振り返り、次回の設定を見直している。</li> <li>感覚特性や個別課題に応じて役割や参加方法を柔軟に調整している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動プログラムと個別支援計画との関連性をより明確にし、目標との結びけを強化する。</li> <li>活動効果の振り返りを記録として蓄積し、支援の見える化を進める。</li> <li>職員の専門性向上のため、運動療育や感覚統合に関する研修機会を拡充する。</li> </ul>
2	子ども主体の支援姿勢(自己決定の尊重)	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容や順番、役割などに複数の選択肢を設けている。</li> <li>子ども会議を通して活動内容の意見を取り入れている。</li> <li>「どうする?」と問いかけ、即座に指示しない関わりを意識している。</li> <li>できたことを言語化し、自己肯定感につなげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会議を定期化し、意見反映の仕組みを明確にする。</li> <li>選択場面を活動前だけでなく活動中にも広げる工夫を行う。</li> <li>自己決定の積み重ねがどのように成長につながったかを振り返る視点を強化する。</li> </ul>
3	チームで質を高める支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>終れで必ず支援の振り返りを行い、気づきを共有している</li> <li>ヒヤリハットを共有し、活動動線や環境を見直している</li> <li>安全計画や各種マニュアルに基づき、定期的に確認・研修を実施している</li> <li>欠席職員にも朝礼や日報で情報共有を徹底している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返り内容を整理・共有し、支援改善のサイクルをより明確化する。</li> <li>ヒヤリハット事例を定期的に分析し、予防策を仕組み化する。</li> <li>安全計画や訓練内容を保護者にも分かりやすく伝える方法を検討する。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の体系化・可視化の強化	開所間もないことから実践の蓄積が十分とは言えず、日々の支援を優先する中で記録や分析の体系化が十分に進んでいない部分がある。また、運動療育の効果については実感としての手応えはあるものの、客観的に示すための仕組みづくりが今後の課題である。	開所初年度は日々の支援の安定と基盤整備を優先してきたが、今後は実践の蓄積を体系的に整理し、支援効果の可視化を強化していく。具体的には、発達5領域と関連付けた運動療育の評価指標を設定し、定期的な成長確認を行う仕組みを構築する。また、月1回の振り返り会議を定例化し、支援内容の共有・標準化を図るとともに、保護者へは具体的な変化や成長を分かりやすくフィードバックすることで、「説明できる支援」の確立を目指す。
2	家族支援の充実	日々の支援や信頼関係の構築を優先してきたため、家族支援を体系的に実施する体制の整備が十分ではない。保護者ニーズの継続的な把握や、定期的な学び・交流の機会の設定については今後の検討課題である。	これまで日々の連携や信頼関係の構築を大切にしてきたが、今後は家族支援をより仕組み化し、充実を図る。年1回の保護者アンケート実施によりニーズの把握を行い、結果を支援内容に反映させる。また、発達特性や家庭での関わり方等をテーマとしたミニ学習会の開催や、面談機会の明確化を行い、相談しやすい環境づくりを推進する。家庭と事業所が同じ方向性で子どもの成長を支える体制の強化を図る。
3	地域との連携拡大	新設事業所としてまずは利用児童と家庭への支援体制の確立に注力してきたため、地域との定期的・計画的な連携体制の構築や、地域に開かれた取り組みの具体化はこれからの段階である。	現在は必要時の連絡・情報共有を中心に連携を行っているが、今後はより計画的かつ継続的な連携体制の構築を目指す。併利用先の保育所・幼稚園等との定期的な情報共有の機会を設け、支援目標の共有と相互理解を深める。また、見学機会や体験型イベント等を通して地域に開かれた事業所運営を行い、関係機関との顔の見える関係づくりを進めることで、地域における支援資源としての役割を強化していく。

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	運動療育センター ぐらんど中間教室
------	-------------------

公表日 2026年 3月 31日

利用児童数 19名

回収数 18名(94.7%)

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	2		1	もう少し広くても良いかなとは思いますが。	ご意見ありがとうございます。 当事業所では、活動内容に応じてスペースの使い分けや人数調整を行い、安全に活動できる環境づくりに努めております。今後も子どもたちが安心してのびのびと活動できる環境整備を行ってまいります。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	16	2				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15	3				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18					
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15	1		2	聞き取りありの書面が利用し始めの一度しかなく、その後は半年以上たって聞き取りなしの書類が作成されて、サインを書いて終わりの為、こちらのニーズにそっているかはわからない。	貴重なご意見をありがとうございます。 個別支援計画の作成・更新にあたっては、保護者の皆さまのご意向やお子さまの状況を踏まえた支援内容となるよう努めておりますが、聞き取りや説明の機会が十分に伝わっていなかった可能性があるとして受け止めております。今後は、計画更新時における聞き取りや面談の機会をより丁寧に設けるとともに、保護者の皆さまのニーズを十分に反映できるよう取り組んでまいります。また、計画内容についても分かりやすい説明と共有を行い、安心してご利用いただける支援体制の充実に努めてまいります。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14	2		2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	2		1		
11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	4	2	7			
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16	1		1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	3	3	4		

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	13	4	1	他の職員から聞きました。 と言われあまり話しを聞いてくれない。	貴重なご意見をありがとうございます。保護者の皆さまとの情報共有について、十分にお話を伺えていないと感じさせてしまった点があったことを真摯に受け止めております。今後は、送迎時や連絡ツール等を通じてお子さまの様子を丁寧にお伝えするとともに、保護者の皆さまのお話やご相談をしっかりと伺いながら、共通理解を深められるよう努めてまいります。また、職員間での情報共有を適切に行いながらも、保護者の皆さまのお声を直接お聞きする姿勢を大切にしていまいります。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	6	3			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15	2	1			
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	3	1	6	親子参加は一度ありましたが、保護者会とはまた違う？	ご意見ありがとうございます。当事業所では、これまで親子参加型のイベント等を実施しておりますが、保護者会としての開催とは形式が異なるため、分かりにくい点があった可能性があるとして受け止めております。今後は、保護者の皆さま同士の交流や情報共有の機会についても、実施方法や内容を検討しながら、より分かりやすい形でお知らせしてまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14		1	3		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15	2		1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15		1	2		
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18						
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15			3	マニュアルの説明はあったが、訓練をしているかは利用日ではないこともあると思うので、よくわかりません。	ご意見ありがとうございます。当事業所では、事故防止や非常災害、感染症等の発生を想定した各種マニュアルを整備するとともに、避難訓練や安全に関する訓練を定期的実施しております。一方で、訓練の実施状況について保護者の皆さまに十分にお伝えできていなかった可能性があるとして受け止めております。今後は訓練の実施状況や安全対策について、より分かりやすくお知らせできるよう努めてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13			5	先述同様に利用日が訓練日ではないことも多いと思うので、よくわかりません。	ご意見ありがとうございます。当事業所では、非常災害の発生に備え、避難訓練等を定期的実施しております。一方で、訓練の実施日が利用日と重ならない場合もあり、保護者の皆さまに十分にお伝えできていなかった可能性があるとして受け止めております。今後は、訓練の実施状況についても分かりやすくお知らせできるよう努めてまいります。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16			2		
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	17			1		

満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	15	3			
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	4		<p>どの方も子どもによく接してくださり安心して過ごせています！毎月イベント等も考えて実施してくださり楽しみにしています！今後、可能な範囲での野外での活動（いちご狩りなど）増えると子ども楽しみが増えるかなと期待しています！</p>	<p>温かいお言葉をいただきありがとうございます。職員の関わりや活動内容について安心してご利用いただけているとお声を大変嬉しく思います。当事業所では、子どもたちが楽しみながら成長できるよう、季節行事やイベント等の活動を取り入れながら支援を行っております。野外活動につきましても、安全面等を考慮しながら、子どもたちがさまざまな経験を積める機会として今後の活動の参考にさせていただきます。</p>